



Tokyo Gakugei University Repository

東京学芸大学リポジトリ

<http://ir.u-gakugei.ac.jp/>

Title	記事 (学会記事) ( fulltext )
Author(s)	
Citation	学芸地理(73): 79-94
Issue Date	2017-12-26
URL	<a href="http://hdl.handle.net/2309/149299">http://hdl.handle.net/2309/149299</a>
Publisher	東京学芸大学地理学会
Rights	

## 学会記事

### 2017年度「東京学芸地理学会大会および総会」

#### 報告

日時：2017年6月25日（日）13:00～17:00

会場：東京学芸大学南講義棟

談話会：テーマ「仕事と地理学」

2017年6月25日（日）、東京学芸大学地理学会大会として、「仕事と地理学」をテーマとする「談話会」が開催された。会員の木谷（院50）による問題提起の後、現在さまざまな業界で活躍されている卒業生4名の発表が行われた。ここでは各発表内容について、①仕事と地理学との関係、②学生や大学への要望の2つの視点から整理し、その後のフロアーを交えた主な議論について報告する。

#### 1 白田（寺岡）睦美氏（学59期，旅行会社勤務）

① 地理に触れたことで、気候や地形をはじめとする地理で学んだ知識が、社会生活や添乗業務にいかされている。地理のフィールドワークと添乗業務で行う中味は非常に似ている。出発前には、場所・歴史・地誌という3つの柱で旅先について調査するが、そこでは新旧の地図比較や現地の歴史、統計資料にみる産業や貿易、人口や民族、観光地の売りなどを調べ、それらを添乗ノートにまとめてから現地へ赴いている。こうした地域や社会のさまざまな要素・特徴をまとめる力は、地理の研究プロセスを通して学んだことでもあり、特定の場所をお客様に魅了させるという添乗員の仕事に大いに役立っている。

② 添乗員は、現地目撃で目に飛び込んできたもので話し、ガイドの解説と関連付けてわかりやすく共感しやすく語ることが求められる。そこには教育学部で学んだ経験も生かされてい

る。フィールドに学び、フィールドに語らせることを大切にしてほしい。

#### 2 沼田信一郎氏（学56期，教科書会社勤務）

① 編集の仕事の楽しさは地図を作ることである。地図にプラスアルファの情報として歴史や旅などをからめることで、地理を好きになってもらえるよう工夫している。また、複雑な情報をいかに見やすくわかりやすく示すかも常に考えている。営業では、全国の社会科教師に意見を聞いたり、新しい資料を頂けたりすることが楽しみ。ある歴史専門の先生は、地理的な「空間認識力」や「地域の風土」の大切さを痛感していると話されていた。加えて、各地で学芸大を卒業された先輩方と会えるのも楽しみの一つである。

② 地理で学んだことを将来どのように生かせるのかを考え、自分の得意な武器を作ることが心がけてほしい。大学の博学な先生方から少しでも多くのことを学んでほしい。大学教育への要望としては、近年、地域のことを知らない先生方が増えているので、地理教育の普及・発展のためには、大学段階で空間認識力を再確認する必要があると思う。大学では是非それらを鍛えてほしい。

#### 3 竹内敏浩氏（学37期，鉄道会社勤務）

① 鉄道は地形と人口に大きく影響される。地形の影響として、鉄道は雨に強くなったものの風には弱い。自社は線形が良いことから雨には強いが、多摩川の鉄橋を渡るのに、風速20m以上になると電車の運行が停止してしまう。

人口との関わりとしては、鉄道会社の沿線開発では、街を一から創る視点で宅地開発や学校・商業施設の誘致を進める。過去の沿線における人口増加率は大規模開発と大きく関

わっており、沿線人口の増加は顧客の増加にもつながる。しかし近年、少子高齢化が進んだことから、こうしたビジネスモデルの大幅な転換を図りつつある。

近年再開発を進めている渋谷では、街をエンターテイメントシティにするため、ソフト面だけでなく、ハード面に関して、渋谷川の移転や人々の動線を変えるべく計画している。

#### 4 関秀明氏 (学33期・院19期, 出版社勤務)

- ① 出版社としては、本を世に出して流通させることが大切であるが、地理学系出版社として地理学のオリジナリティを重視しつつ、編集として読者にわかりやすく内容を伝えられるようにしている。本には2種類の目的があり、一つは読者の読みたいというニーズを満たすため、もう一つは著者の書きたいというニーズを満たすためにある。その2つの折り合いをつけるのも編集者の仕事である。地理教育界への発信を目的に作成した『身近な地域を調べる』という本は、どの学区域でも通用する内容にしたが、GIS学会では工学出身者にも好評であった。そのため、地理学書で書かれている地理学の視点は他分野・多分野に通用するものだったと実感した。
- ② 学会参加は外の世界を知ることにつながるため、学生にはそこで最先端の学問に触れ、一流のやりとりを見てほしい。大学には、社

会人になってから地理学へ戻ってこられるよう、様々な立場の人が戻ることのできる余裕があると良い。

#### 全体討論の主な内容

##### Q1. 地理総合が必修化されるが、地理教育では何を教えていくと良いのか

竹内：大切なのはロジカルに物事を把握して、ある課題に答えられるようになっていくかどうか。地理はその論理の組み立ての一つの方法であり、それは法律でも経済でも同じこと。多様な視点から物事のつながりを見つけられる地理の強みを生かせるようにすること。

##### Q2. 地理学出身を就活でどうアピールするか

竹内：学芸大出身者としては、先生になりたい気持ちもあるが、会社に入ってどういう所で活躍できるかを話せるようにする。

有賀：地理の物事に面白みなどの付加価値を与えられるメリットについて話す。

野中：世の中の人々の多くは地理が苦手。身近な事柄と地理の内容を結びつける必要がある。

沼田：地理や地図が好きということだけではなく、広い視点を持っていることを話すの良いのではないかと。

(院50期 木谷 隆太郎)

## 総会報告

去る2017年6月25日、2017年度東京学芸大学地理学会総会が行われた。主な議題は以下の通りである。

- ① 2016年度活動報告と承認
- ② 2016年度決算報告と承認
- ③ 2017年度役員承認
- ④ 2017年度活動計画案と承認
- ⑤ 2017年度予算案と承認
- ⑥ 東京学芸大学地理学会会則改定と承認
- ⑦ その他

以上のうち②について、卒業生（学24期の故・永岡幸夫氏）からの寄付金（300万円）に関し次年度の会計報告に反映させることとした。なお寄付金の活用については卒業生の意見をふまえ、大切に活用すべく検討していきたいとの報告がなされた。

### 「学芸地理」投稿のお願い

会員諸氏からの論文、授業実践報告・指導案、フォーラム、書評等の投稿をお待ちいたしております。執筆要領については、東京学芸大学地理学分野のホームページを参照してください。

なお、編集作業の都合上、原稿の締切日は8月31日とさせていただきます。

### 学会費納入のお願い

当学会の年会費は2,000円となっております。お近くの郵便局でお振込みになるか、総会や卒論発表大会などの際に直接お支払いください。なお、郵便振替を利用される場合には、住所・氏名のほか通信欄に学部期(または院期)と勤務先を必ずお書き添えてくださいますようお願い申し上げます。

#### 《郵便振替》

口座番号 00140-8-96187

加入者名 東京学芸大学地理学会

### 東京学芸大学地理学分野ホームページについて

東京学芸大学地理学分野のホームページのURLは以下の通りです。

<http://www.u-gakugei.ac.jp/^chiriken/>

今後ともさらに充実させたものにしていきたいと考えておりますので、何かお気づきの点がございましたらご連絡ください。また、会員の方のホームページとのリンクを考えておりますので、ホームページをお持ちの方は、URLをお知らせください。

なお、学芸地理学会に関するお問い合わせ、ご連絡は、gakugeitiri2014 [at] gmail.co.jpまでお願いいたします。

## 決算報告

### 2017年度東京学芸大学地理学会予算案

I 一般会計	
I-1) 収入の部 (単位:円)	
項目	予算額
学会費	130,000
学芸地理72号広告費	46,000
学芸地理73号広告費	46,000
利子(ゆうちょ)	0
前年度繰越金	0
合計	222,000

I-2) 支出の部 (単位:円)	
項目	予算額
集会費	0
総会費	0
定例委員会費	0
巡検費	0
学芸地理73号出版費	120,000
印刷費	
編集費	120,000
通信費	45,000
学芸地理73号送費	5,000
通信用はがき、ラベル他	40,000
事務局費	3,000
文具・消耗品	1,500
備品	1,500
予備費	54,000
合計	222,000

II 特別会計-1 (単位:円)	
項目	金額
学会特別基金	1,394,000
定額郵便貯金 i (2008.6.19契約)	500,000
定額郵便貯金 ii (2008.6.19契約)	316,000
定額郵便貯金 iii (2008.7.29契約)	418,000
定額郵便貯金 iv (2014.5.1契約)	160,000
合計	1,394,000

II 特別会計-2	
II-2-1) 収入の部(懇親会費) (単位:円)	
項目	予算
前年度繰越金	53,944
総会	50,000
卒業論文発表大会	68,000
合計	171,944

II-2-2) 支出の部 (単位:円)	
項目	予算
総会	50,000
卒業論文発表大会	68,000
次年度繰越金	53,944
合計	171,944

### 2016年度東京学芸大学地理学会決算報告

I 一般会計		
I-1) 収入の部 (単位:円)		
項目	予算額	決算額
学会費	180,000	125,000
学芸地理71号広告費	54,000	46,000
学芸地理72号広告費	54,000	0
利子(ゆうちょ)	0	10
特別会計II繰入金 ※1	0	80,808
前年度繰越金	137,370	137,370
合計	425,370	389,188

I-2) 支出の部 (単位:円)		
項目	予算額	決算額
集会費	10,000	5,798
総会費	10,000	5,798
定例委員会費	0	0
巡検費	0	0
学芸地理71号出版費	170,056	170,920
印刷費	160,056	160,920
編集費	10,000	10,000
学芸地理72号出版費	120,000	119,896
印刷費	75,000	-
編集費	45,000	-
通信費	80,000	66,008
学芸地理71号送費	20,000	
学芸地理72号送費	20,000	3,564
通信用はがき、ラベル他	40,000	62,444
事務局費	3,000	26,566
文具・消耗品	1,500	237
備品	1,500	0
慶弔費 ※2	0	26,229
予備費	42,314	0
合計	425,370	389,188

II 特別会計-1 (単位:円)	
項目	金額
学会特別基金	1,394,000
定額郵便貯金 i (2008.6.19契約)	500,000
定額郵便貯金 ii (2008.6.19契約)	316,000
定額郵便貯金 iii (2008.7.29契約)	418,000
定額郵便貯金 iv (2014.5.1契約)	160,000
合計	1,394,000

II 特別会計-2		
II-2-1) 収入の部(懇親会費) (単位:円)		
項目	予算	決算
前年度繰越金	114,620	114,620
総会	46,000	60,000
卒業論文発表大会	65,000	68,000
合計	225,620	242,620

II-2-2) 支出の部 (単位:円)		
項目	予算	決算
総会	46,000	39,254
卒業論文発表大会	65,000	68,614
一般会計繰越金	0	80,808
次年度繰越金	114,620	53,944
合計	225,620	242,620

※1一般会計が支出超過となっているため、特別会計IIから¥80,808繰入れている。  
 ※2香典・香典袋・生花代が含まれる。

## 会員の業績（2016年1月～12月）

### 青木 久

#### 【論文】

有賀夏希・青木 久（2016）：高等学校地理における自然災害学習に活用可能な教材作成の試み. 沖縄地理, 16, pp.79-86.

吉國耀太・前門 晃・青木 久（2016）沖縄島北端辺戸岬石灰岩海岸におけるノッチの発達条件に関する一考察. 沖縄地理, 16, pp.73-78.

### 牛垣 雄矢

#### 【論文】

牛垣雄矢・木谷隆太郎・内藤 亮（2016）：東京都千代田区秋葉原地区における商業集積の特徴と変化 —2006年と2013年の現地調査結果を基に—. E-journal GEO 11-1, pp.85-97.

牛垣雄矢（2016）：動態地誌的観点と歴史的観点を取り入れた地域構造図の作成 —神奈川県川崎市を事例に—. 東京学芸大学紀要人文社会科学系Ⅱ 67, pp.61-68.

牛垣雄矢（2016）学生の街・神田を歩く —大学における野外実習の記録—. 学芸地理 72, pp.65-77.

### 加賀美 雅弘

#### 【著書】

加賀美雅弘（2016）：エスニック集団の記憶の場 —ウィーンのユダヤ人の観光スポット. エスニック市場にみるウィーンのエスニック景観の動向. 山下清海編著『世界と日本の移民エスニック集団とホスト社会 —日本社会の多文化化に向けたエスニック・コンフリクト研究』. 明石書店, pp.46-52, pp.129-148.

加賀美雅弘（2016）：ドイツ・フォークトランド地方の地域おこしと野外博物館. 石井正己編

『博物館という装置 —帝国・植民地・アイデンティティ』. 勉誠出版, pp.272-290.

#### 【論文】

加賀美雅弘（2016）：保養地の環境評価に関する一考察 —気候保養地メラーンの解説書（1881）を用いて. 東京学芸大学紀要人文社会科学系Ⅱ 67 : 35-46.

#### 【教科書】

谷内 達・加賀美雅弘監修（2016）：『社会科 中学生の地理 —世界の姿と日本の国土（文部科学省検定済教科書 中学校社会科用）』. 帝国書院.

### 辻村 千尋

#### 【論文】

辻村千尋（2016）：生物多様性・自然保護の観点からみた太陽光発電施設立地. 地域生活学研究, 7, pp.150-154.

## 東京学芸大学地理学会シリーズⅡの刊行が始まる

東京学芸大学地理学会では10年ほど前に、「東京学芸大学地理学会シリーズ」と銘打って、4冊の地理教育に関する書物を刊行したが、この度、それに続くシリーズが全5巻で始まった。2017年にはそのうち次の第1巻と第2巻が刊行された。

上野和彦・本木弘悌・立川和平編 (2017) :  
日本をまなぶ西日本編, 120ページ

上野和彦・本木弘悌・立川和平編 (2017) :  
日本をまなぶ東日本編, 120ページ

2冊とも古今書院の発行で、名誉会員の上野和彦氏を中心になって編集が進められた。執筆者はいずれも東京学芸大学地理学会の会員で、最近卒業したばかりの若手の現職教員が多いのが特色になっている。また執筆者の多くが卒業論文や修士論文、あるいは現地調査で扱った地域を取り上げているため、データが新しく、地域の最新の姿を知ることができる。各人が作成したオリジナルの図表も多く、この点も好評なようである。学芸地理学会にとっては久しぶりに層の厚さを示した記念すべき事業といえる。会員の皆様には手にとってご覧いただいただけでなく、ぜひ知り合いにご紹介いただきたいと思う。

(会長 小泉武栄)

「東京学芸大学地理学会シリーズ」は、学芸地理学会会員の場合、以下の方法で申し込むと会員割引 (20%引・送料無料) になります。

### 申し込み先

古今書院 東京学芸大学地理学会シリーズ担当

郵送の場合 : 101-0062

千代田区神田駿河台2-10

Fax の場合 : 03-3233-0303

メールの場合 : seki [at] kokon.co.jp

### 記載事項

- 1) 学芸地理学会会員・お名前 (ふりがな)
- 2) 書名
- 3) お送り先の住所・郵便番号・電話番号

\* 本は古今書院より送付されます。代金は本同封の振込用紙にて後払い。

## 寄贈・交換雑誌一覧 (2016.6.1 ~ 2017.5.31)

- 地域研究年報 2016. 筑波大学人文地理学・地誌学研究会 38  
TSUKUBA GEOENVIRONMENTAL SCIENCES 2015. 筑波大学大学院生命環境科学専攻 地球環境科学専攻 11  
歴史地理学 2016. 歴史地理学会 58-2  
歴史地理学 2016. 歴史地理学会 58-3  
歴史地理学 2016. 歴史地理学会 58-4  
奈良大地理 2016. 奈良大学地理学会 22  
法政地理 2016. 法政大学地理学会 48  
富岡製糸場と群馬の蚕糸業 2016. 高崎経済大学地域学科研究所  
自由貿易下における農業・農村の再生 ― 小さな人々による挑戦 2016. 高崎経済大学地域科学研究所  
産業研究 2016. 高崎経済大学地域科学研究所 51-1・2  
産業研究 2016. 高崎経済大学地域科学研究所 52-1  
史艸 2016. 日本女子大学史学研究会 57  
季刊地理学 2016. 東北地理学会 68-2  
季刊地理学 2016. 東北地理学会 68-3  
経済地理学年報 2016. 経済地理学会 62-2  
熊本地理 2016. 熊本地理学会 24, 25, 26, 27  
えりあぐんま 2016. 群馬地理学会 22  
地域地理研究 2016. 地域地理科学会 22  
年報 長野県地理 2008. 長野県地理学会 27  
年報 長野県地理 2009. 長野県地理学会 28  
年報 長野県地理 2010. 長野県地理学会 29  
年報 長野県地理 2011. 長野県地理学会 30  
年報 長野県地理 2012. 長野県地理学会 31  
年報 長野県地理 2013. 長野県地理学会 32  
年報 長野県地理 2014. 長野県地理学会 33  
年報 長野県地理 2015. 長野県地理学会 34



## 東京学芸大学地理学会会則 (2017年6月改正)

第1条 本会は東京学芸大学地理学会と称する。

第2条

1. 本会は地理学および地理教育の研究発展と会員相互の親睦を図ることをもって目的とする。
2. 本会の事務局は東京学芸大学地理学分野におく。

第3条 本会は前条の目的達成の為、次の事業を行うことができる。

1. 研究発表会、講演会、談話会、その他
2. 巡検、共同調査、その他
3. 機関誌「学芸地理」その他の発行
4. その他

第4条

本会は第2条に示す本会の趣旨に賛同する者を会員として構成され、最高議決機関として総会を設置する。

入退会については別にこれを定める。

また本会会員に、一般会員・名誉会員・学生会員の種別を設けることができる。名誉会員・学生会員については別にこれを定める。

第5条 会員は本会則および総会の決定に従わなければならない。また、会員は以下に示す各事項について優先的にその便宜を受けることができる。

1. 第3条第1項に示す各事業における報告および参加
2. 第3条第2項に示す各事業への参加
3. 第3条第3項に示す刊行物の受領
4. その他、学会からの通信事務

第6条 本会は会員の互選により会長1名を選出し、会長の任命により、会員の中から副会長1名、委員長1名、委員若干名、会計監査2名の役員をおく。会長の任命による役員は、総会による承認を受ける。役員の任期は承認を受けた総会から次年度総会までとする。また、会長の発議により、前項に定める役員の他に特別委員会を設置できる。特別委員会の名称、特別委員の任命・任期については別にこれを定める。

第7条 会長は総会を招集する他、本会の一切の責任を負い、副会長はこれを補佐する。

第8条 総会は年1回の定期総会を開き、本会の事業、運営全般にわたり審議する。また、会長および委員長が必要と認めた時、あるいは全会員の20分の1以上の要請によって臨時総会を開くことができる。

第9条 総会は委任状を含めて全会員の10分の1以上をもって成立し、決定は出席者の多数決による。

第10条 委員は委員長と共に委員会を構成し、必要に応じて副委員長1名を互選する。

第11条 委員会は会長・委員長の必要に応じて招集される。

第12条 委員会は、本会の円滑な運営に必要な事項を協議し実務一切に当たる。

第13条 委員は協議により、総務・会計・編集、その他必要に応じた職務を分掌する。

第14条 総務委員は本会の運営事務全般に亘りこれを総括する。

第15条 会計委員は本会運営に必要な会計業務一切にあたり、備品管理を兼任する。また、年度の決算は総会において報告しなければならない。

第16条 編集委員は機関誌およびその他の出版物の発行にあたる。本業務については総会に報告しなければならない。

第17条 総会において決定囑託された会計監査は、本会の運営に必要な業務会計について監査し、総会に報告しなければならない。

第18条 本会事業に必要な経費は、会費その他の収入をもってこれにあてる。年度の予算は総会の承認を得なければならない。

会計年度は4月1日に始まり、翌年3月31日に終わる。

第19条 会費については、別にこれを定めるが、改正変更にあたっては総会の承認を得なければならない。

第20条 本会会員は所定の会費を納めなければならないが、これに反する場合の処置については別にこれを定める。

第21条 本会則は総会において承認の日（2003年5月25日）より発効するが、改正は総会において行う。

## 東京学芸大学地理学会会則内規

第4条 入退会について

- ・入会 入会については委員会の承認を得なければならない。
- ・退会 退会については以下の場合について委員会で協議する。

会員の死亡

居所不明

また、その他問題が生じた場合第4条名誉会員について

委員会は、本会の会員から、以下の基準に基づいて名誉会員として推薦し、総会で承認を受けることができる。

また、名誉会員の資格は会員と同等であるが、会則6条に定める役員への任命を行わない。また、名誉会員からの会費は徴収しない。

1. 名誉会員への推薦は65歳以上を対象とする。
2. 本学教員を長く務めた者。
3. 本会の役務を長く務め、本会の発展に著しく貢献をした者。

第4条 学生会員について

学生および院生は、学生会員の資格を得ることができる。また学生会員の資格は、会員と同等であるが、会費は徴収しない。

第6条 役員任命について

1. 委員は会員および学生会員によって構成される。

2. 会計監査に学生会員の任命を行わない。

第6条 特別委員会の設置および特別委員の任命・任期について

1. 会長の発議による特別委員会は、以下の場合に設置が行える。

①学会一般会計とは異なる特別会計を必要とする事業の運営の場合。

②委員会組織とは独立して学会の運営全般について検討作業を必要とする場合。

2. 特別委員会の活動は、総会での承認・報告を必要とする。

3. 特別委員は会長の任命により、総会による承認を受ける。

4. 特別委員の任期は原則的に4月1日から翌年3月31日までとするが、必要に応じ、加減が可能とする。

第19条 会費については2002年度現在では年額2,000円である。

第20条 会費未納者の処置について

3ヵ年以上の未納者には機関誌の発送を停止するほか、会則5条による便宜を一部制限できる。ただし、再び当年分の会費を納入すればこの制限を解除される。

## 『学芸地理』投稿規程・執筆要領 (2013年12月一部改訂)

『学芸地理』(THE JOURNAL of GEOGRAPHY THE GAKUGEI-CHIRI)は、東京学芸大学地理学会(以下、本学会と称す)の機関誌で、原則として年1回発行する。学芸地理は本学会の目的にふさわしい論文等のほか、書評、ニュース、学会員に対する情報提供のための記事を掲載するものである。

### 《投稿規程》

学芸地理に記載される原稿は、上記の趣旨にふさわしい内容を備えた未発表のものに限る。ただし、部内の技術資料等で、部外配布数の僅少な刊行物にのみ掲載された原稿については、学芸地理にふさわしく書き直すとともに内容が重複する旨を本文中に明記すれば、投稿することができる。本誌の投稿原稿は、原則として本学会会員に限る。連名で投稿する場合は、少なくとも本学会の会員が1名含まれていることとする。ただし、編集委員会が依頼した原稿についてはこの限りではない。

#### 1. 投稿原稿の審査および採否の決定

編集委員会は、投稿された原稿が本投稿規程の定める原稿の条件に照らしてふさわしい内容か否かを審査し、掲載の可否を決定する。その際、論説 (Original Article)、展望 (Review)、研究ノート (Research Note)、授業実践報告 (Practice Record)、資料および討論 (Data and Discussion)、書評 (Book Review) と、編集委員会の企画に基づく、特集 (Edition) の原稿については、複数の査読者による査読結果をもとに編集委員会が掲載の採否を決定する。

編集委員会は、査読者の意見その他の理由を明示し、期限を定めて原稿の修正を著者に求めることができる。また、編集委員会は、かな遣いなど軽微な点について、原稿を修正することができる。た

だし、編集委員会の意見に異議申し立てがあれば、著者はその旨を申し述べることができる。

## 2. 原稿の種類

原稿の種類は、以下のとおりとする。

- 1) 論説：原稿の長短に関わらず、オリジナルな学術研究の成果をまとめたものとする。
- 2) 展望：既存研究の成果の検討、研究史、研究動向、将来の展望などについてまとめたものとする。
- 3) 研究ノート：オリジナルな学術研究の中間報告や予報、新しい手法の提案などとする。
- 4) 授業実践報告：地理教育や社会科教育の参考となる授業実践報告をまとめたものとする。
- 5) フォーラム：地理学・地理教育や本学会の発展に資する意見・要望などとする。
- 6) 資料：地理教育や社会科教育、地理学および諸関連分野における資料的価値のある情報とする。
- 7) 討論：学芸地理に掲載された論説などに対する批判・質問および筆者からの反論・回答とする。
- 8) 書評：地理教育や社会科教育、地理学および関連諸分野の新刊書等を紹介・批評したもの。ただし、評者の立場から内容を検討し、評者の意見を吟味して論評したものとする。
- 9) 研究要旨：臨地研究要旨、卒業論文要旨、修士論文要旨。
- 10) その他：特集号における巻頭言、ゼミ巡検や紹介記事など。
- 11) 学会記事など：学会巡検、総会や定期大会における特別講演・研究発表要旨、総会の記録。

## 3. 原稿の作成と長さ等

- 1) 図・表・写真、欧文要旨などを含めた、原稿の長さは刷り上がりにおいて以下のとおりとする。

	原稿の種類	刷り上がりページ制限	刷り上がり字詰め	原稿の字詰め	原稿枚数
1)	論説	20ページ以内	21字×37行×2段	21字×37行	40枚
2)	展望	20ページ以内	同上	同上	40枚
3)	研究ノート	15ページ以内	同上	同上	30枚
4)	授業実践報告	20ページ以内	同上	同上	40枚
5)	フォーラム	15ページ以内	同上	同上	30枚
6)	資料	4ページ以内	同上	同上	8枚
7)	討論	4ページ以内	同上	同上	8枚
8)	書評	4ページ以内	同上	同上	8枚

- 2) 原稿は、表題、本文、謝辞、注、参考文献、欧文要旨（付す場合）、図・表・写真、図・表・写真キャプションの順にまとめ、本文から参考文献まで通しページを付すこと。

## 4. 著作権

学芸地理誌上のすべての記事の著作権および編集著作権は、本学会に帰属するものとする。本文の一部分や図・表・写真などを他の著作物から転載する場合、著作権に関わる問題や法令上の手続きは、著者自身があらかじめ処理しておくこと。

## 5. 原稿の提出

- 1) 原稿と図・表・写真などのコピー2部に、論説・展望・研究ノート・授業実践報告・フォーラム・資料および討論の原稿については、図・表・写真などを含めた原稿の仮割付けしたレイアウト

見本1部を添えること。

- 2) 原稿は、本学会所定の原稿送付状とともに、編集委員会（〒184-8501 東京都小金井市貫井北町4-1-1 東京学芸大学地理学研究室内）宛に提出すること。

## 6. 原稿送付状

- 1) 日本人などの著者名のローマ字表記は、TSUBAKI Machikoのように姓を先とし、姓はすべて大文字で記す。
- 2) 表題部における論説などの著者の所属は、基本的に掲載時の所属期間・組織名などを記すこと。なお、東京学芸大学地理学分野の卒業生は、学部期・院期も記すこと。
- 3) 論説・展望・研究ノート・授業実践報告・資料には日本語と英語のキーワード（欧文要旨があればその後）を付すこと。キーワードは5つ程度とし、論文の内容を明確に示す語を選ぶ。文献検索に利用されることも考慮して、著者の造語、一般性のない語、過度に長い複合的な語は用いない。

## 7. 原稿の修正・校正

編集委員会は査読結果に基づき、本文・図表・欧文要旨などの修正・加筆を求めることができる。修正は投稿者の書き直しを原則とする。

掲載決定の通知後には、修正した原稿（図・表・写真などを含む）を1部と、原稿データ（テキストファイルで保存したもの）や図・表・写真などのオリジナル（コンピュータで作成した場合には、そのファイル）を保存したCD-ROMディスク（USBメモリースティックでも可）を編集委員会へ提出すること。

## 8. 別刷

論説、展望、研究ノート、授業実践報告、資料および討論については、著者の申し出にもとづき、著者用の別冊を作成する。受付部数は50部単位とし、代金は著者負担とする。

## 《執筆要領》

### 1. 原稿の作成

標題は、原稿1ページ目の上部に和文および英文の標題、その下に和文および英文の著者名を明記すること。原稿は、本文、謝辞・付記、注、参考文献、および著者の所属、必要があれば英文要旨の順番に並べること。連名の場合は、「・」をはさんで列記すること。書評の場合は、原稿の末尾に、投稿者名を括弧に入れて表す。原稿には頁番号を付すこと。

### 2. 章節項構成

論説、展望、研究ノート、授業実践報告、資料等の本文は、章・節・項から構成されるものとし、章はローマ数字「I, II, III, …」、節は全角数字「1., 2., 3., …」、項は片カッコ付数字「1), 2), 3), …」とし、タイトルの文字フォントは「MSゴシック」とする。

### 3. 本文

- 1) 文字フォントは「MS明朝」とし、タイトル、本文、注、参考文献などは、A4版白紙を縦に用いて、天地2.5cm、左右5cm程度の余白と行間の余裕を十分にとり、21字×37行でプリントアウトする。
- 2) 句読点は、ピリオド「.」、カンマ「,」に統一し、全角文字（1マス）とする。
- 3) 人名や地名などの特別なもの以外は、常用漢字・新かな遣いを使用する。
- 4) 副詞はなるべくひらがなで書く。
- 5) 外国語・外来語にはカタカナを用い、学名・人名・学術用語には原語表記を併記すること。アルファベットなどの外国文字は、半角文字（2字で1マス）とする。外国語の表記名は、人名の姓と名を区別するような場合を除いて、みだりに「・」で分割しないようにする。複合的な姓を区切る必要がある場合は、「フィッシャー＝デイスカウ」のように「＝」を用いる。
- 6) 外国語文献からの直接引用は、日本語訳を原則とする。古い日本語文献からの直接引用は原典通りとするが、漢字はなるべく現行の日本語での一般的な字体を用いる。
- 7) 年号は西暦を使用する。その他の年号を使用する場合も西暦を併記する（例：1782年または1872（天明2）年）。また、「天明年間」、「文化文政期」などのように年号による特定時期の表現が必要な場合には、なるべく初出の際に、対応する西暦を括弧書きで付記する。その際、「1810年代」、「19世紀初め」などの概略表現でも可。
- 8) 数量・数字・単位
  - ①数字（西暦を除く）はアラビア数字を用い、半角文字（1桁の数字は全角）とする。なお、3桁ごとにカンマ（例：1,000）を入れ、大きな数字は、「兆、億、万」などの漢字を使うこと（例：1億3,000または1.3億）。分数は、「2分の1」または「 $1/2$ 」と書くこと。
  - ②緯度・経度は、「北緯42度15分」または、「42° 15' N」のように表記する。
  - ③2つの年次（年代）で期間を表すときには、「19」などを略さず（1980年○80年×）、「1980～1990年」、「1960年代～1970年代」のように表記する（「1980年から2000年」という表現に統一しても可）。
  - ④数量の記載には、原則としてMKS単位系（メートル法）に従い、1つの記号で単位を表すものは全角で、2文字以上の英字で表すものなどは半角で単位をつけること（例：m, g, %, °Cなどは全角。km, kgなどは半角）。ただし、一般によく知られているもの（里、貫、石、町、反、マイル、バーレルなど）については、この限りではない。
- 9) 数式
  - ①数式は2行分以上取りとし、文字・数字・記号などの種類および大小や特殊な文字（イタリック、ボールド、ギリシャ文字など）の上添え・下添えなどが明瞭に区別できるようにすること。
  - ②各数式の後に、(1), (2), …のように通し番号を付けること。
  - ③一つの量は一つの文字で表す。
  - ④数量・物理量を示す記号は、イタリックにする。数式の添字も数量・物理量あるいは番号に対応する場合には、イタリックにする。
  - ⑤ベクトルはイタリックボールドにする

- 10) 動植物名の学名は片仮名（イタリック）とする。なお、家畜や作物などで、牛、豚、米、小麦のように漢字の使用が一般化している場合は漢字で表記する。
- 11) 当該論文を発表した研究集会名・年月・使用した研究費などは謝辞・付記等に記載すること。

#### 4. 注

注については、該当箇所（1）2）3）を付記し、参考文献の前にまとめて注の内容を記載すること。ワープロソフトの自動脚注機能は、原稿には用いないこと。

#### 5. 参考文献の配列と表記

〈参考文献の配列〉

- 1) 本文の末尾（謝辞、注がある場合はその後）に、引用した文献（論文、単行本など）を1つにまとめた文献表を掲げるものとする。文献の並べ方については、日本語文献（著者名五十音順）、中国語文献、韓国（朝鮮）語文献（著者名の該当当該言語配列順または片仮名表記五十音順）、欧文文献（著者名アルファベット順）の順に並べること。
- 2) 同じ著者の文献は発表年の順に並べる。同じ発表年のものが複数ある場合には、引用順に、a, b, c, ……を付して並べること。
- 3) 筆頭著者が同じである連名著者の文献の場合には、著者数の少ない順に並べる。著者数が同じ場合には、第2著者（以下）の五十音順（アルファベット順）に並べること。

〈参考文献の表記〉

本文中の文献を引用する場合は、必要な箇所、文献の著者名と発表年を示すものとする。具体的には以下のとおりとする。

[単独著者の場合]

- 上野（2002）によれば、……した例がある（上野，2002）。
- 矢ヶ崎（1980，1983）は、…とされてきた（矢ヶ崎，1980，1983）。
- 椿（2000a，2000b）は、…と指摘している（椿，2000a，2000b）。
- 澤田（2000）や高橋（2000）では、…が明らかにされた（澤田，2000；高橋，2000）。
- 古田（1996）や中村（1998）では、…の研究がある（古田，1996；中村，1998）。
- 太田陽子（1992）や太田弘（2006）では、…である（太田陽子，1992；太田弘，2006）。

[著者2名の場合]

- 山下・高橋（2002）によれば……と指摘されている（山下・高橋，2002）。

[著者3名以上の場合]

- 加賀美ほか（2002）では、……した例がある（加賀美ほか，2002）。
- Jhonstonatal.（1994）によれば、……という見方もある（Jhonstonatal.，1994）。

- 1) 参考文献では、著者名（共著の場合は全著者名を列挙、姓名のどちらかが1字の場合は、全角文字（1マス）空ける）、発表年、文献名、雑誌名（和文雑誌は略記しない）、巻（通しページの場合は号も）、ページ、発行所（書籍の場合）を必ず記載する。文献・雑誌などが2行にわたる場合は、2行目以降は、全角文字（1マス）空けること。

- 2) 欧語の単行本名、欧文雑誌名はイタリックとする。
- 3) 巻と号がある雑誌では、巻ごとに通しページがある場合には、号数を省略する。号数ごとにページが改まる場合には、巻数の後に号数を丸括弧に入れて、3 (4) のように書く（数字は半角に統一）。
- 4) 雑誌論文あるいは論文集掲載論文の場合には、論文の最初と最後のページを示す。単行本の場合には総ページ数を示す。
- 5) 論文タイトルに、サブタイトルがある場合は、サブタイトルの前後に、全角「一」をつけること。
- 6) 再版、復刻版などの場合には、原則として実際に引用した文献について記し、必要に応じて初版などに関する情報を付記する。ただし、完全な復刻版の場合で、本文の記述の上でとくに必要であれば、原著について記し、復刻版に関する情報を付記する。
- 7) Webページに代わる刊行物がなく、やむなくWebページを引用する場合には、文献表にWebページの作成者名、作成年（表記がある場合）、名称、URL、最終閲覧日を記載する。
- 8) 年鑑・統計書・新聞記事・古文書・地図（説明書つきの地図、地図集は除く）、私信などの史資料は、参考文献の後に参考資料として表記するか、本文、注、図・表の脚注のいずれかにおいて、編者、発行年次、発行機関、所属先などの書誌情報のうち、必要と思われるものを記す。

〈論文〉

- 斎藤 功・矢ヶ崎典隆（2005）：サリナスバレーにおける野菜栽培とサラダ加工会社の広域的展開。地学雑誌，114，pp.525-548.
- 矢ヶ崎典隆（2005a）：地理学研究者の論文生産年齢。地理学評論，78（8），pp.1-3.
- 矢ヶ崎典隆（2005b）：日本の地理学研究者によるアメリカ研究—文献目録—。東京学芸大学紀要第3部門社会科学，56，pp.51-63.
- 矢ヶ崎典隆・二村太郎（2005）：アメリカ大平原ガーデンシティにおける東南アジア系社会とローカルホスト社会。新地理，53（2），pp.33-51.

〈単行本・報告書〉

- 木本 力（1984）：『地理教育の展開』大明堂，185p.
- 日本地誌研究所編（1972）：『日本地誌第11巻 長野県・山梨県・静岡県』二宮書店，675p.
- 古田悦造（1996）：『近世魚肥流通の地域的展開』古今書院，418p.
- 水越允治・山下脩二（1985）：『気候学入門』古今書院，200p.

〈翻訳本〉

- デビット・グリッグ著，山本正三・内山幸久・村山祐司共訳（1986）：『農業地理学入門』原書房，232p. Grigg, D. (1984) : An Introduction to Agricultural. Hutchinson, London.
- C.R. ブライアント,T.R.R. ジョンストン著，山本正三，菊地俊夫，内山幸久，櫻井明久，伊藤貴啓共訳（2007）：『都市近郊地域における農業—その持続性の理論と計画—』。C.R. Bryant & Thomas R.R.Jhonston（2006）：Agriculture in the city's countryside.

〈欧語の文献〉

- Yagasaki.N. (2003) : Adaptive strategy of Japanese Immigrants and occupatinal sequent



occupance in the development of fresh produce marketing in Los Angeles. Geographical Review of Japan, 76, pp.894-909.

〈インターネットに掲載されている文献〉

農林水産省：市民農園開設状況. [http://www.maff.go.jp/nouson/chiiki/simin\\_noen/joukyou.html](http://www.maff.go.jp/nouson/chiiki/simin_noen/joukyou.html)  
(最終閲覧日：2006年4月1日)

吉田容子 (2006)：地理学におけるジェンダー研究—空間に潜むジェンダー関係への着目—.

E-journal GEO, Vol.1 (0), pp.22-29. <http://www.soc.nii.ac.jp/ajg/ejgeo/> (最終閲覧日：2006年5月8日)

## 6. 図・表・写真

1) 図・表・写真は、できる限り工夫して、必要十分なものに限定すること。学芸地理は21字×37行の2段組を定型とし、図・表・写真の刷り上がりの左右の幅は、1段分または2段分に収まるようにすること（図・表・写真は最大で1ページ大まで可。図表等の折り込みは行わない）。

2) 図・表・写真については、「第1表」、「第1図」、「写真1」などに続けて、表題や説明を明記すること。

図・表・写真の表題や説明文はまとめて原稿の末尾につけること。図・表・写真については原稿には挿入せず別紙にまとめる。

3) 図表等は、トレーシングペーパーに墨書きし、必要な文字を写植したもの、またはコンピュータで作成した図表等の鮮明なプリントアウトであること。図・表・写真は別紙にまとめ、原稿には挿入しないこと。プリントアウトした原稿には図・表・写真の挿入箇所を朱書きし、掲載時のサイズを明記しておくこと。

4) 掲載時の図・表・写真は白黒を原則とする。カラーページなど特別な印刷を必要とする場合には、原稿送付以前に編集委員会へ相談することとし、その経費は著者が負担する。

5) 掲載された原稿の図・表・写真やCD-ROM等は、あらかじめ著者より申し出があった場合に限り返却する。

## 7. 書評

1) 原著名、訳者名は原則として姓名とも略さずにフルネームで示すこと。

2) 価格は、原則として消費税込みの価格で示すこと。外国書の場合についても、わかる範囲で価格も明記する。

3) 書評の見出しについては、以下のとおりとする。

矢ヶ崎典隆・斎藤 功・菅野峰明編著：『アメリカ大平原—食糧基地の形成と持続性—』古今書院, 2003, 219p. 3,500円

P. ジャクソン著、徳久珠雄・吉富 亨共訳：『文化地理学の再構築—意味の地図を描く—』玉川大学出版部, 1999, 268p. 4,500円